

学級担任のまなざし 44

Okayama Prefectural Education Center

R2.8.25(Tue)

「初心に戻る」

夏季休業中のある日、初任者から相談を受けました。「4月から学級経営に力を入れて、それなりに上手くいっていたのですが、6月頃から何となく学級がザワザワして、そのまま一学期が終わったんです…。」と言うのです。よい機会なので、一緒に考えることにしました。

人間、誰にでも好調の時もあれば不調の時もあり、それは教員にも子どもにも当てはまります。体や気持ちの調子にも波があるもので、どの学級にも波はあるものだ、と最初から思っていた方がいいと思います。4月は、子どもたちみんな新しい気持ちで張り切っていて、授業中の態度や学級の仕事への姿勢、宿題への意欲や友達関係も好調です。そして、5月、6月。連休もあり、梅雨で湿気も多くなり、暑くなり、担任や学級の友達にも慣れ、少しずつ、疲れとマンネリ化が出てきます。そんな時、どうすればよかったのでしょうか。

二人で話し合っていたとき「担任も子どもも、だんだん学級目標を意識しなくなったのではないか」と気付きました。学級目標は1年間で目指す目標なので、どうしても抽象的で大きな目標になっています。もう少し、短期のめあてを立て、達成し、達成したことをみんなで確認して、次のめあてを立て…、と時間の幅を短くして取り組んではどうか、という話になりました。

学級目標は目指す「方向を示す」目標、めあては短期で目指す「到達点」と考えることもできるのではないのでしょうか。「短い期間で、その都度、初心に戻るということですね。二学期の始業式を初心に戻るチャンスにします。」と初任者からは元気な声が返ってきました。